

令和6年度みどりの食料システム戦略緊急対策交付金のうちグリーンな栽培体系への転換サポート

産地戦略

事業実施主体名：阿賀野市

都道府県名：阿賀野市 対象品目： トマト

策定年月： 令和7年3月 目標年次： 令和12年

※事業実施計画における目標年度の翌年度から5年目とする。

環境負荷軽減の取組

	化学農薬の使用量低減		化学肥料の使用量低減	○	有機農業の取組面積拡大		温室効果ガスの削減 (水田からのメタンの発生抑制)
	温室効果ガスの削減 (バイオ炭の利用)		温室効果ガスの削減 (石油由来資材からの転換)		温室効果ガスの削減 (プラスチック被覆肥料対策)		温室効果ガスの削減 (CO2、N2Oの排出削減)

第1 事業実施地域の現状と目指すべき姿

1 事業実施地域

新潟県阿賀野市

2 事業実施地域の現状

事業実施地域である阿賀野市は、水稻が主要品目の産地であり、有機栽培をはじめ、減農薬・減化学肥料栽培を取り入れる農業者が多い産地である。

このような中、有機農法で栽培された品目（水稻以外）を求める地元事業者が存在する。

※1の事業実施地域の現状について、実施しようとしている環境負荷軽減の取組の実施状況等、課題と認識している点について具体的に記載。

3 事業実施地域を目指すべき姿

有機農法で栽培された品目（トマト）を地元事業者が加工用として使用することで、農業者にとって安定的な販路が確立される。それにより、農業者が安心して有機トマトを生産できる地域になっている。

※事業実施地域内へのグリーンな栽培体系の普及により、2に記載した課題がどう改善され、どのような姿になるのかを具体的に記載。

第2 グリーンな栽培体系の普及に向けた取組

1 今後普及すべきグリーンな栽培体系

ア 取り入れる技術

	取り入れる技術	期待される効果
環境にやさしい栽培技術	・ 化学肥料の使用量の低減	・ 化学肥料の使用量 7.5kg/10a → 0kg/10a
省力化技術	・ ペレット堆肥の活用による散布作業の軽労化	・ 堆肥散布に係る作業時間 20%削減

イ 現在の栽培体系

項目	作業時期			4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		備 考	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
作業段階																													
技術							化学肥料の使用																						
技術							バラ堆肥散布																						

※事業実施地域における現在の一般的な営農体系を記載。

※作業時期は作物の栽培期間等に応じて調整可能。



ウ グリーンな栽培体系

作業時期 項目		4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			備 考
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下							
作業段階																																						
環境にやさしい栽培技術 ・ 省力化技術																																		化学肥料の不使用				
環境にやさしい栽培技術 ・ 省力化技術																																						

※アで記載した「環境にやさしい栽培技術」及び「省力化技術」が、栽培体系のどの工程に取り入れられるのか明確に記載。

2 新たな栽培体系の普及に向けた目標

ア 環境負荷軽減の目標

指標 \ 年度		R6 (現状値)	R12 (目標値)	増減率 (%)	備考
1	—	—	—	—	
	単位				

※温室効果ガスの削減の取組のため、ウにおいて取組面積の目標を設定することで、環境負荷低減の目標設定に代える。

イ 省力化目標

指標 \ 年度		R6 (現状値)	R12 (目標年次)	増減率 (%)	備考
1	堆肥散布に係る作業時間の削減	21分25秒	17分8秒	▲20%	現状値：令和6年度実証結果に基づく
	単位 散布時間/列（100コンテナ）				

ウ 普及を目指す面積

(単位：a)

指標 \ 年度		R6 (現状値)	R12 (目標値)	増減率 (%)	備考
グリーンな栽培体系に取り組む面積 (有機トマト取組面積)		0	2	—	有機農業、無農薬・無化学肥料の面積を実績値とする。
トマト作付面積（笹神地区管内） 【参考値であり目標値ではない】		20	20	0%	新潟かがやき農協ささかみアグリセンター実績報告（令和4年度）より
普及割合		0.00%	10.00%		

第3 関係者の役割分担及び取組内容

構 成 員	役割分担及び取組内容				
	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度 (目標年次)
農業者	・有機トマトの栽培 ・有機農法を実施したうえでの課題の共有や助言	・有機トマトの栽培 ・有機農法を実施したうえでの課題の共有や助言	・有機トマトの栽培 ・有機農法を実施したうえでの課題の共有や助言	・有機トマトの栽培 ・有機農法を実施したうえでの課題の共有や助言	・有機トマトの栽培 ・有機農法を実施したうえでの課題の共有や助言
道の駅あがの (株あがの)	・消費者理解の醸成に関する取組み ・有機トマトを使用した商品づくり及び販売	・消費者理解の醸成に関する取組み ・有機トマトを使用した商品づくり及び販売	・消費者理解の醸成に関する取組み ・有機トマトを使用した商品づくり及び販売	・消費者理解の醸成に関する取組み ・有機トマトを使用した商品づくり及び販売	・消費者理解の醸成に関する取組み ・有機トマトを使用した商品づくり及び販売
阿賀野市 農林課	・産地戦略の進捗管理 ・栽培マニュアルの検証、見直し ・グリーンな栽培体系の普及に向けた情報発信	・産地戦略の進捗管理 ・栽培マニュアルの検証、見直し ・グリーンな栽培体系の普及に向けた情報発信	・産地戦略の進捗管理 ・栽培マニュアルの検証、見直し ・グリーンな栽培体系の普及に向けた情報発信	・産地戦略の進捗管理 ・栽培マニュアルの検証、見直し ・グリーンな栽培体系の普及に向けた情報発信	・産地戦略の進捗管理 ・栽培マニュアルの検証、見直し ・グリーンな栽培体系の普及に向けた情報発信